

# 第2期可児市総合戦略 効果検証結果

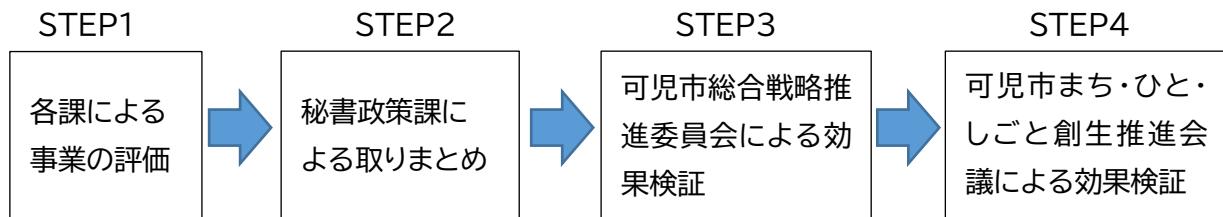
効果検証方法と評価基準について	1
【基本目標1】数値目標、KPI	2
主な取り組み状況と総括	4
【基本目標2】数値目標、KPI	6
主な取り組み状況と総括	9
【基本目標3】数値目標、KPI	11
主な取り組み状況と総括	14
【基本目標4】数値目標、KPI	16
主な取り組み状況と総括	18

市政企画部秘書政策課  
令和7年8月

## 効果検証方法と評価基準について

### 1. 効果検証の流れ

効果検証は、以下の流れで実施しています。



### 2. 数値目標及びKPIの評価について

数値目標及びKPIは、下記の4段階評価(S～C)のもとに評価をします。

※KPI…重要業績評価指標

達成度	評価の視点
S	目標値に対して 120%以上
A	目標値に対して 100%以上 120%未満
B	目標値に対して 80%以上 100%未満
C	目標値に対して 80%未満

### 3. 達成度について

達成度については、以下の算定方法により算出しています。

$$\text{達成度(%)} = (\text{実績値} \div \text{目標値}) \times 100$$

### 4. 市民アンケートについて

可児市市政経営計画の施策の実施状況についての点検や検証、評価のための指標とすることを目的に、毎年度市民アンケートを実施しています。数値目標、KPIの一部に本アンケートによる実績値を使用しています。

#### 【アンケート概要】

##### ・調査対象

市内在住の 16 歳以上の市民 3,000 人

※内訳:16 歳以上の市民 2,000 人と 16 歳～39 歳の市民 1,000 人

##### ・調査期間

令和7年4月 25 日から令和7年5月 13 日

##### ・アンケートの回収状況

調査票の種類	回収数	回収率
① 全年代(16歳以上の市民)	764通	38.2%
② 若年層(①以外の16～39歳までの市民)	273通	27.3%

※次ページ以降の若年層アンケート結果は、①のうちの 16 歳～39 歳の回答(101 通)と②の回答 (273 通)を合算しています。

## 【基本目標1】(元気)

安定した生活基盤を築ける「人と経済が元気なまち」を創る

数値目標	基準値		R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	達成度
市内の 総生産額 (市町村民 経済計算)	3,813 億円 (H29)	目標 値	3,850 億円 (H30)	3,887 億円 (R1)	3,924 億円 (R2)	3,961 億円 (R3)	4,000 億円 (R4)	S 122.7 %
		実 績 値	4,234 億円 (H30)	4,000 億円 (R1)	3,955 億円 (R2)	4,582 億円 (R3)	4,907 億円 (R4)	
製造品 出荷額等	5,312 億円 (H30)	目標 値	5,300 億円 (R1)	5,300 億円 (R2)	5,300 億円 (R3)	5,300 億円 (R4)	5,300 億円 (R5)	A 115.5% (※1)
		実 績 値	4,852 億円 (R1)	4,645 億円 (R2)	5,713 億円 (R3)	6,120 億円 (R4)	未公表	

(※1)令和6年度の実績値が未公表であるため、令和5年度実績により達成度を評価しています。

### (1)企業の誘致・拡張と活動の支援

【KPI】新規立地・拡張企業の操業開始時における  
新規雇用人数(累計)

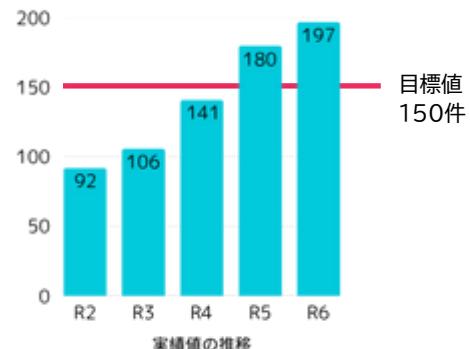
基準値(R1)	目標値(R6)	結果(R6)	達成度
195人	245人	277人	A 113.1%



### (2)地域産業の活力づくり

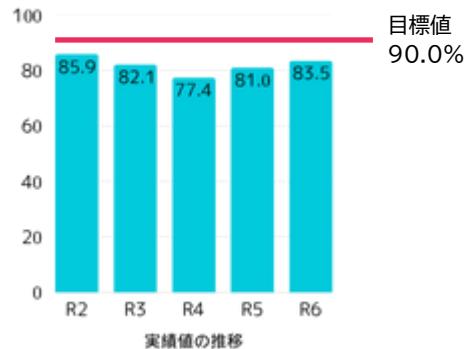
【KPI】創業・起業件数(累計)

基準値(R1)	目標値(R6)	結果(R6)	達成度
79件	150件	197件	S 131.3%



### 【KPI】「可児市の自慢できる地域資源」を回答した人の割合(アンケート)

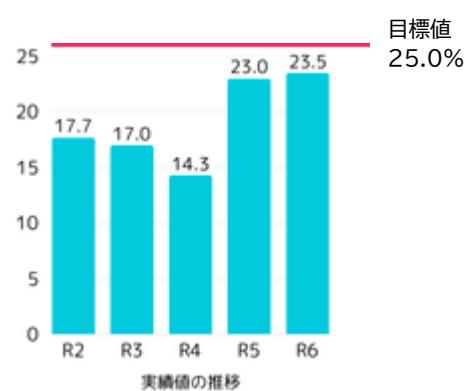
基準値(R1)	目標値(R6)	結果(R6)	達成度
86.4%	90.0%	83.5%	B 92.8%



### (3)「ひと」と「しごと」の好循環の構築

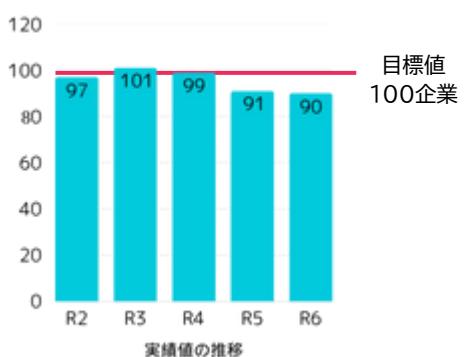
#### 【KPI】市内高校生の市内企業への就職率

基準値(R1)	目標値(R6)	結果(R6)	達成度
18.8%	25.0%	23.5%	B 94%



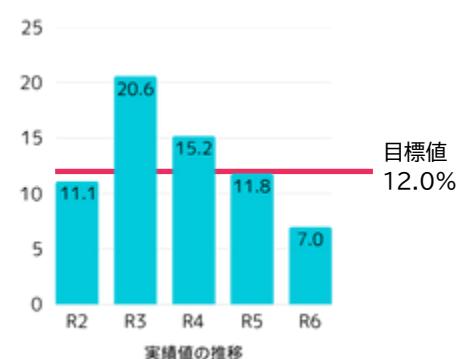
#### 【KPI】わくわくWorkプロジェクト登録企業数

基準値(R1)	目標値(R6)	結果(R6)	達成度
94企業	100企業	90企業	B 90.0%



#### 【KPI】ハローワークで求職した外国籍市民のうち就職した人の割合

基準値(R1)	目標値(R6)	結果(R6)	達成度
11.1%	12.0%	7.0%	C 58.3%



## 【基本目標1】(元気)

安定した生活基盤を築ける「人と経済が元気なまち」を創る

### 主な取り組み状況

#### (1)企業の誘致・拡張と活動の支援

##### ①新たな企業立地を促進します

新たな企業立地の促進と、可児御嵩インターチェンジ工業団地開発の推進のため、次の取り組みを実施しました。

- ・開発区域の販売のために企業経営診断を行いました。
- ・工業団地開発の造成工事や申請、登記測量等を行い、分譲を開始しました。

##### ②市内企業の拡張・活動を支援します

市内企業の拡張や企業活動が円滑に行えるよう、次の取り組みを実施しました。

- ・市企業立地促進条例に基づき、事業所等設置奨励金を市内企業に交付しました。

#### (2)地域産業の活力づくり

##### ①創業・起業を支援します

創業・起業を実現し、安定した企業活動を支援するため次の取り組みを実施しました。

- ・可児ビジネスカフェを開設し、販路開拓、商品開発や創業などの相談に応じました。

##### ②地域資源のブランド化を推進します

市のイメージ向上と観光産業の活力増進のため、次の取り組みを実施しました。

- ・「ふらっと可児あるき」等の観光ガイドブック、マップなどを作成しました。
- ・(株)良品計画と一般社団法人を立ち上げ、特産品の里芋を使ったクッキーが開発・販売されました。

#### (3)「ひと」と「しごと」の好循環の構築

##### ①若者の地育地働を支援します

可児市で育った若者が、可児市で働き、生活できるよう大学生や高校生、若者の市内企業への就職支援、人材育成・確保、学校と企業の連携強化の支援のため、次の取り組みを実施しました。

- ・可児の企業魅力発見フェアを開催し、これに多くの市内企業が出展するとともに、近隣高校等の生徒等が参加しました。

・小・中学生とその保護者を対象としたかっこlaboバスツアーを開催し、職場見学やワークショップ等を通じて、市内の事業所を知る機会を提供しました。

##### ②仕事と育児の両立を支援します

男女が共に活躍できる社会を目指し、子育てしながら働くような企業の取り組みを推進するため、次の取り組みを実施しました。

- ・働きやすい職場づくりや地域活動についての取り組みを積極的に行う企業として、わくわくWorkプロジェクトへの事業所の登録を推進しました。
- ・市内企業PR動画の広報ツールとして、企業紹介動画が見られるよう二次元コードを載せたクリアファイルを作成し、市内の大学に配布し周知しました。

##### ③外国籍市民の安定した就労につながる、共生社会を創ります

外国籍市民が安定した生活を築くことにより、多文化共生社会を創出するため、次の取り組みを実施しました。

- ・外国籍市民相談窓口に国際交流員を配置し、就労に関する相談等の対応を行いました。
- ・各年代ごとに日本語講座等を開催し、日本語習得の支援を行いました。

## 総括

市内総生産額は全期間を通じて目標値を上回り、令和6年度には4,907億円と大きく伸長しました。平均達成度は122.7%でS評価となり、地域内経済の回復と成長が確認できました。

製造品出荷額は令和5年度に6,120億円を記録し、目標の5,300億円を大きく超過し、達成度は115.5%でA評価となり、地域産業が堅調であることが示される結果となりました。

KPI指標においても、「新規立地・拡張企業の操業開始時における新規雇用者数」は277人(目標245人)、「創業・起業件数」は197件(目標150件)でそれぞれA評価、S評価となり、新たな産業の芽や雇用の創出が確実に進んでいることが確認されました。市の支援策や企業誘致の取組が着実に成果を上げていると評価できます。

一方で、「可児市の自慢できる地域資源」を挙げた市民の割合は83.5%(目標90.0%)、「市内高校生の市内企業への就職率」は23.4%(目標25.0%)はB評価となりました。地域への愛着を育むための教育的・社会的な取り組みが、今後さらに深められる余地があることが考えられます。

「ハローワークで求職した外国籍市民のうち就職した人の割合」は7.0%(目標12.0%)とC評価となりました。これは物価高に起因する人件費の増加等による求人数の減少のほか、日本語能力や就労資格の条件、雇用ミスマッチなど、外国籍市民特有の課題が関係していると考えられます。

多言語での就労支援情報の提供や、企業側への受入れサポート、就労に向けたスキルアップの機会づくりなど、本人の希望に応じた丁寧な支援を充実させることで、定住・定着につながる雇用促進をめざしていくことが求められます。

基本目標1の達成に向けた取り組みは着実に成果を上げており、地域経済の土台は強まりつつあります。若者や外国籍市民も含めた多様な人材が活躍できる環境を整え、地域への定着や誇りの醸成につなげていくことが求められます。

## 【基本目標2】(魅力)

市の魅力を向上・発信することにより、人を引きつける「魅力とつながりのあるまち」を創る

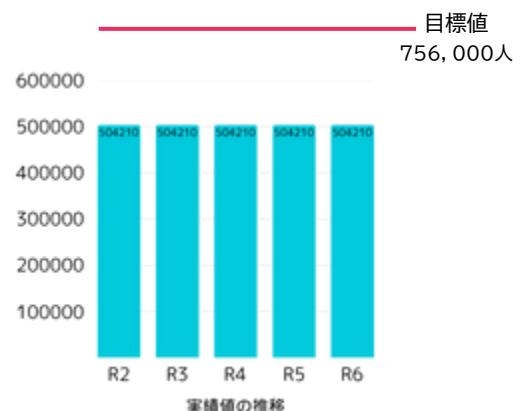
数値目標	基準値		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	達成度
観光交流人口 (市内観光施設入込客数)	4,122,287人 (R1)	目標値	4,163,000人	4,204,000人	4,245,000人	4,287,000人	4,328,000人	B 93.2%  B 99.5%
		実績値	3,721,983人	3,640,149人	3,948,599人	4,012,093人	4,033,967人	
可児市に愛着がある人の割合(アンケート)	60.4% (R1)	目標値	61.0%	62.0%	63.0%	64.0%	84.0%	B 99.5%
		実績値	60.9%	56.5%	52.0%	83.4% (※2)	83.6%	

(※2)令和6年度に実施したアンケート内容の見直しにより、令和4年度から5年度にかけて実績値が大きく上昇しています。これに伴い、令和6年度の目標値を修正しています。

### (1)シティプロモーションの推進

【KPI】新たな交流人口の増加数(累計)

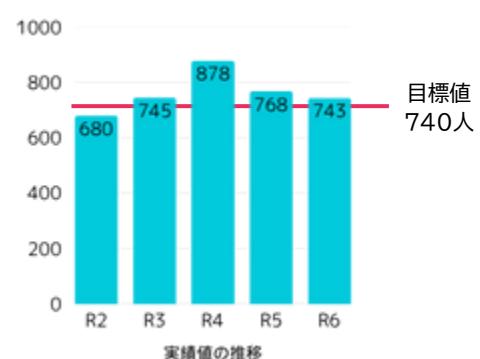
基準値(R1)	目標値(R6)	結果(R6)	達成度
504,210人	756,000人	504,210人	C 66.7%



### (2)定住・移住の促進

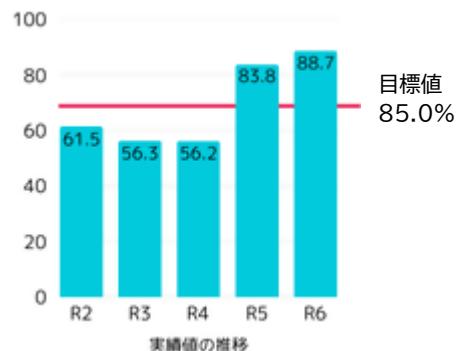
【KPI】可児市に魅力を感じて転入した人数(年間)

基準値 (R1)	目標値 (R6)	結果 (R6)	達成度
686人	740人	743人	A 100.4%



### 【KPI】可児市にずっと住みたい人の割合(アンケート)

基準値(R1)	目標値(R6)	結果(R6)	達成度
61.7%	85.0%	88.7%	A 104.4%

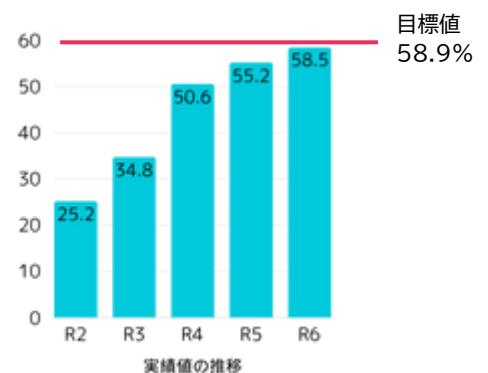


(※1)令和6年度に実施したアンケート内容の見直しにより、令和5年度から令和6年度にかけて実績値が大きく上昇しました。

### (3)地域と市民の元気づくり

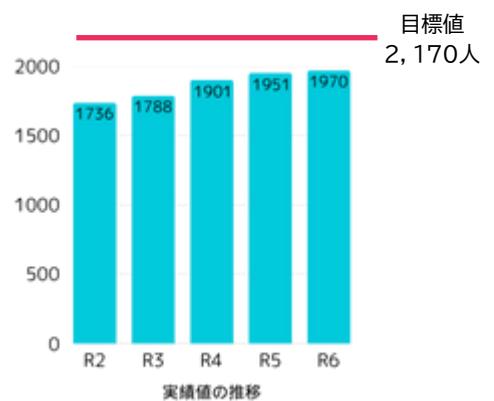
#### 【KPI】文化創造センター劇場(主劇場・小劇場)稼働率

基準値(R1)	目標値(R6)	結果(R6)	達成度
65.7%	58.9%	58.5%	B 99.3%



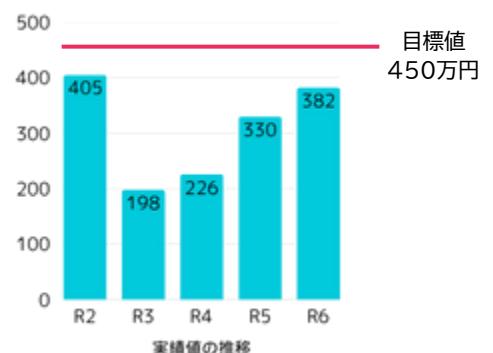
#### 【KPI】可児UNIC(ユニック)スポーツクラブ会員数

基準値(R1)	目標値(R6)	結果(R6)	達成度
2,058人	2,170人	1,970人	B 90.8%



#### 【KPI】地域支え愛ポイントによるKマネー交付額

基準値(R1)	目標値(R6)	結果(R6)	達成度
398万円	450万円	382万円	B 84.9%



#### (4)子どものふるさとを愛する心を育む

【KPI】児童生徒が「今住んでいる地域の行事に参加している」と回答した割合

基準値(R1)	目標値(R6)	結果(R6)	達成度
76.5%	80.0%	—	—

※令和2～4年度は調査未実施、令和5年度は59.9%、令和6年度は「令和6年度全国学力・学習状況調査」より該当の設問が削除されたことにより評価を行っていません。

## 【基本目標2】(魅力)

市の魅力を向上・発信することにより、人を引きつける「魅力とつながりのあるまち」を創る

### 主な取り組み状況

#### (1)シティプロモーションの推進

①観光資源を掘り起し、磨き上げ、魅力を伝えることで交流人口を増やします

歴史・文化・自然といった地域資源を観光資源として磨き上げ、地域活性化を促進するため、次の取り組みを実施しました。

・観光資源を活用した市内での各種イベントの開催、市外で開催される大規模なイベントへの出展により魅力発信を行いました。

・各城跡の整備とPRを図りました。

②市の魅力や地域資源をPRします

ホームページやSNSなどにより、観光スポット等の市の魅力がより伝わる情報発信を進めるため、次の取り組みを実施しました。

・バンテリンドーム ナゴヤにおいて、「住みごこち一番・可児市デー」を開催し、市内の小学生親子を招待するとともに、「子育てしやすいまち」をコンセプトにした15秒CM動画を作成し、ドーム内で上映しました。

・SNS(LINE、インスタグラム等)を活用し、観光情報を発信しました。

#### (2)定住・移住の促進

①定住・移住を促進するために都市機能や土地利用のポテンシャルを活かします

定住・移住を促進するため、次の取り組みを実施しました。

・可児市空き家・空き地バンクを管理・運営し、空き家の活用を推進しました。

・空き家の除却に対し助成金を交付し、土地の利活用に向けた支援を行いました。

②定住・移住を促進するために住みよさをPRします

行政・地域情報などを発信し、地元で働く魅力を伝えるとともに、若い世代が可児市で子育てしたい、穏やかに暮らしたいと感じるよう、市の魅力と住みよさを市内外にPRするため、次の取り組みを実施しました。

・就職を希望する高校生を対象とした企業説明会を開催し、地元で住み働くことの利点を周知啓発しました。

・市内事業所の魅力を広く周知するため、事業所PR動画の公開、進路決定期前的小中学生を対象にした企業とのマッチングツアーを開催しました。

#### (3)地域と市民の元気づくり

①市民の文化的な活動を促進し、交流とうるおいをもたらします

市民の文化的な活動を促進し、その交流とうるおいをもたらすため、次の取り組みを実施しました。

・アーラを拠点とし、文化・芸術に触れる機会の提供や市民参加型の文化活動を実施しました。

②市民のスポーツ活動を促進し、市民の元気をつくります

スポーツ施設を活用したイベントの開催など、スポーツに親しむ機会を提供するため、次の取り組みを実施しました。

・子どもから高齢者まで「一市民一スポーツ」を目指した事業を行いました。

・可児市運動公園について、防災拠点やスポーツ等の健康づくりを目的とした新たな交流の場としての再整備工事を進めました。

③市民の支え合い活動を支援します

交流、社会参加、地域貢献を行いながら自らの元気づくりに資することができるよう、市民の主体的な支え合い活動を育成、支援するため、次の取り組みを実施しました。

・市民の主体的な支え合い活動を支援し、地域支え愛ポイントによるKマネーを交付しました。

#### (4)子どもたちのふるさとを愛する心を育む

①子どもたちにふるさとの良さを伝えます

子どもたちが、自分のまちの歴史・文化を知り、誇りを持てるよう、次の取り組みを実施しました。

・企業や地域も含め、市全体で子ども向け体験コンテンツの充実を図り、愛着を育む事業を実施しました。

・「可児市じまんとほこり」の活用、郷土歴史館、陶芸苑、荒川豊蔵資料館、川合考古資料館、戦国山城ミュージアムの5館での小中学校校外学習の受け入れ、学校への出前講座(講師派遣)、教材貸出により、子どもたちが郷土の歴史・文化を学ぶ機会を提供しました。

#### 総括

市内観光施設の入込客数は、コロナ禍の影響を受けつつも徐々に回復し、令和6年度は403万3967人となりました。達成度は93.2%でB評価となりましたが、引き続き観光資源の磨き上げと情報発信が求められます。

また、「可児市に愛着がある」と答えた市民の割合は令和6年度に83.6%を記録し、目標の84%に迫りました。達成度は99.5%でB評価となり、市民の定住意識や地域への思いは着実に高まっているといえます。

KPIでは、「可児市に魅力を感じて転入した人数」が743人(目標740人)と目標を超え、また「可児市にずっと住みたい」と答えた市民の割合も88.7%(目標85.0%)に達し、A評価となりました。

一方で、新たな交流人口の増加数(504,210人)は、目標(756,000人)に届かず、C評価(66.7%)となりました。地域資源を活かしたコンテンツの開発や情報発信、多様な世代・層に向けた誘客施策の再構築が求められます。

「文化創造センターの稼働率」が58.5%(目標58.9%)、「UNICスポーツクラブ会員数」が1,970人(目標2,170人)、「地域支え愛ポイントのKマネー交付額」は382万円(目標450万円)はいずれもB評価にとどまりました。利用促進に向けた周知活動の強化、ニーズに応じたプログラム設計、地域主体の仕組みづくりが重要です。

今後も、関係人口・交流人口の拡大に向け、地域資源の魅力を「体験」や「参加」を通じて実感できる仕掛けの整備、世代・属性を超えたつながりを生む場づくり、文化やスポーツを軸にした市民の参画促進を戦略的に展開することが求められます。市民の愛着や定住意欲が高まる土壤を活かしながら、まちの魅力づくりを推進していくことが重要です。

## 【基本目標3】(希望)

子育て世代が安心して、妊娠・出産・子育てができる「子育ての希望がかなうまち」を創る

数値目標	基準値		R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	達成度
「子育てしやすい」と感じている市民の割合(アンケート)	51.2% (R1)	目標値	52.4%	53.6%	54.8%	55.9%	57.0%	C 78.8% (※3)
		実績値	49.9%	44.4%	42.0%	44.9%	72.0%	
学級アセスメント調査(Q-U)、標準学力検査(NRT)における三次支援が必要な児童生徒の割合	6.3% (R1)	目標値	6.0% 以下	6.0% 以下	6.0% 以下	12.6% 以下	12.6% 以下	B 89.4% (※5)
		実績値	6.1%	5.8%	13.3% (※4)	12.0%	14.1%	

(※3)令和7年度に実施したアンケート内容の見直しにより、令和6年度の実績値が大きく上昇しています。そのため最終年度の実績値による評価を行わず、令和5年度実績値により達成度を評価しています。

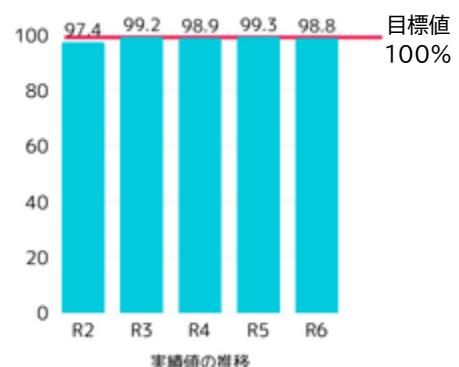
(※4)令和4年度から調査の集計方法を変更したことにより、令和3年度から4年度にかけて実績値が大きく上昇しています。そのため、令和5年度以降の目標値を修正しています。

(※5)この数値目標は、目標値を下回ることで達成される指標です。達成度は(目標値÷実績値)×100で算出しています。

### (1)安心して子育てできる環境づくり

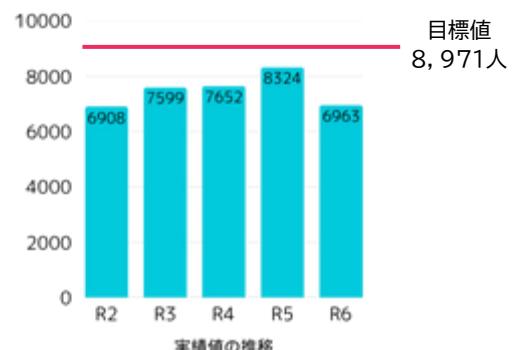
#### 【KPI】乳幼児健康診査受診率

基準値(R1)	目標値(R6)	結果(R6)	達成度
96.7%	100%	98.8%	B 98.8%



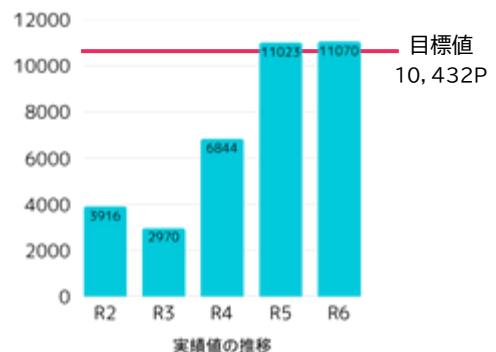
#### 【KPI】家庭教育学級(乳幼児学級を含む)に参加した延べ人数

基準値(R1)	目標値(R6)	結果(R6)	達成度
8,751人	8,971人	6,963人	C 77.6%



**【KPI】子育て支援ボランティア活動に対する地域支え愛ポイント(Kポイント)付与数**

基準値(R1)	目標値(R6)	結果(R6)	達成度
9,872 ポイント	10,432 ポイント	11,070 ポイント	A 106.1%



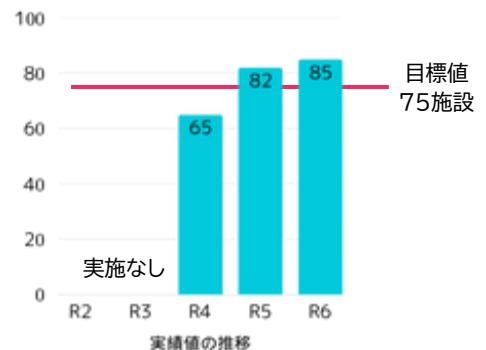
**【KPI】(再掲)可児市に魅力を感じて転入した人数(年間)…P6**

**【KPI】(再掲)可児市にずっと住みたい人の割合(アンケート)…P7**

## (2)学びを支援する環境づくり

**【KPI】各小学校における幼保小連携協議会に参加する幼保育園、幼児施設の合計数(延べ数)**

基準値(R1)	目標値(R6)	結果(R6)	達成度
70施設	75施設	85施設	A 113.3%



(参考値)不登校児童・生徒の出現率

基準値 (R1)	R2	R3	R4	R5	R6
小学校 0.69%	0.98%	1.69%	1.36%	1.68%	1.93%
中学校 4.13%	4.75%	6.27%	8.45%	7.71%	8.01%

(参考値)いじめ解消率

基準値 (R1)	R2	R3	R4	R5	R6
83.5%	59.9%	68.3%	45.8%	-	-

※いじめの判断基準や、いじめが解決したと判断する基準は、個々のケースにより異なることや、いじめの態様が多様化・複雑化していることから、数値によって一律に把握・評価することが適切ではないとの考えにより、近年は定量的な指標としての公表を行つていません。

### (3)未来社会を切り開くための資質・能力の育成

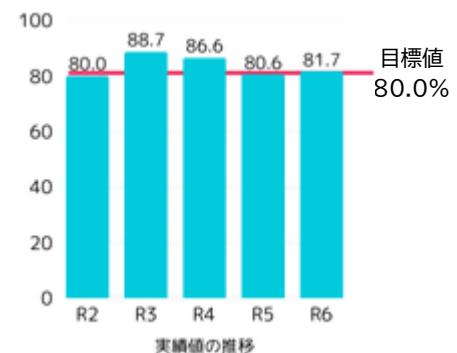
【KPI】ココロとカラダワークショップを体験した児童生徒の満足度

基準値(R1)	目標値(R6)	結果(R6)	達成度
95.0%	90.0%	98.7%	A 109.7%



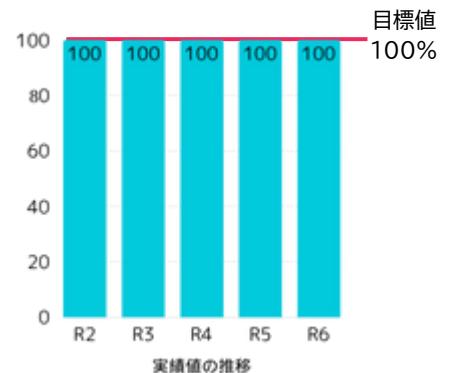
【KPI】授業でのICT活用状況

基準値(R1)	目標値(R6)	結果(R6)	達成度
74.6%	80.0%	81.7%	A 102.1%



【KPI】日本語指導を必要とする児童生徒のばら教室  
KANIへの入室率

基準値 (R1)	目標値 (R6)	結果 (R6)	達成度
100%	100%	100%	A 100%



【KPI】(再掲)児童生徒が「今住んでいる地域の行事に参加している」と回答した割合…P8

## 【基本目標3】(希望)

子育て世代が安心して、妊娠・出産・子育てができる「子育ての希望がかなうまち」を創る

### 主な取り組み状況

#### (1) 安心して子育てできる環境づくり

##### ① 子育て家庭と子育て支援をつなぎます

妊娠から出産・育児まで切れ目のない支援を行うとともに、支援が必要な人へのきめ細かな対応や情報発信、相談体制の充実を図るために、次の取り組みを実施しました。

- ・母子健康手帳交付時に妊婦全員と面談し、担当保健師等を紹介するとともに、支援の必要な妊婦には支援プランによる継続支援を行いました。
- ・産後の不安軽減のため、訪問型及び通所型産後ケア事業を実施しました。
- ・発達相談員によることば・発達相談、すぐすぐ相談を実施しました。また、保育園・幼稚園において年中児相談を実施し、アンケート調査、保護者面談等を行いました。

##### ② 子育ての大切さやノウハウを学びます

なかまづくりや子育てを学ぶ場を提供することで、子育ての不安を解消し、楽しさや喜びを伝えるため、次の取り組みを実施しました。

- ・子どもの発達段階に応じた家庭教育のあり方などを学びながら、子育ての不安解消と楽しさを伝える場を提供しました。
- ・月齢の近い第1子をもつ母親を対象とする子育て講座を開催し、子育ての不安と大切さを母親同士で共有するとともに、必要な子育て支援サービスへつなぎました。
- ・中高生を対象に「ドキドキ赤ちゃんふれあい体験」を開催し、実際に赤ちゃんと触れ合い、保護者から育児についての話を聞くことで、命の大切さや家族の役割を知ってもらう機会を提供しました。

##### ③ 地域のみんなで子ども・子育てに関わります

NPOやボランティアと連携し、地域で子どもを育てる取り組みを促進するため、次の取り組みを実施しました。

- ・コミュニティスクールや地域学校協働活動の推進体制の整備を進めました。
- ・市民が実施する地域における子どもの健全な育ちや子育て世代の絆づくりに資する活動や特別な支援を必要とする子育て家庭等を支援する活動に対し、その費用の一部を助成しました。

##### ④ 子育てをサポートする拠点を充実させます

地域の子育てサポート拠点の活動を充実させるため、次の取り組みを実施しました。

- ・子育て健康プラザmano(マーノ)において、にこっと(児童センター)・絆る～むの運営や、市民支援室による子育てに関する各種相談、支援制度の利用助言、ファミリーサポートセンター事業等を実施しました。
- ・児童センター・館(帷子、桜ヶ丘、兼山)や絆る～む、私立保育園等5園において、地域子育て支援拠点事業を実施しました。

#### ⑤ 定住・移住を促進するために住みよさをPRします(再掲)

基本目標2 参照

#### (2) 学びを支援する環境づくり

##### ① 子どもの育ちと学びの流れをつなぎます

小学校に入った子どもが学校生活に馴染めるよう、専門職を学校に配置し、学校生活の支援を行うなど、心に寄り添い、個々の力を引き出し、伸ばす義務教育を推進するため、次の取り組みを実施しました。

- ・就学に向けた情報提供について、早期に保護者から提供同意をもらうことで、スムーズな連携を推進しました。
- ・WEB Q-Uにより児童生徒の実態を把握し、個に応じた必要な支援の手立てを考えるとともに、児童生徒の困り感を早期に掴み、これにスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを含めた組織的な対応を徹底し、児童生徒が安全・安心な生活を送れるような支援を行いました。
- ・不登校児童生徒の学校以外の居場所づくりとして、「スマイルイングルーム」を拡充し、保育園と一体の敷地内にある老人福祉センターの施設内に整備しました。

## ②いじめの防止・解決に取り組みます

いじめの防止、早期発見・解決や、生活や学校での困り感に応じた支援のため、次の取り組みを実施しました。

- ・いじめ防止専門委員会による小中学校の訪問やヒアリングを通して、懸案ケースに関する情報共有や相談支援を行いました。また、特別顧問による学校訪問や子育て相談会等を実施しました。
- ・いじめ防止に関するパンフレットの小中学生への配布や、いじめ防止協力事業所の啓発・認定等を通して、子どもたちを含め、市全体のいじめ防止意識の醸成に努めました。

## (3)未来社会を切り開くための資質・能力の育成

### ①コミュニケーション能力の向上を図ります

豊かな表現力と社会で対応していくコミュニケーション能力を高めるため、次の取り組みを実施しました。

- ・スマイルルーム等において、対面による「ココロとカラダワークショップ」を実施し、自身を表現する楽しさやコミュニケーションの取り方を学ぶ場を提供しました。

### ②学校教育におけるICTの活用を推進します

小中学校へのICT機器の導入や環境の整備を進め、ICTを活用した授業や学習活動の充実を図るため、次の取り組みを実施しました。

- ・デジタル教科書や協働学習ツールを導入し、授業におけるICT機器の活用を促進しました。
- ・GIGAスクール運営支援センターの活動として、ICT支援員を各学校に派遣し、運用面の支援の更なる強化を図りました。

### ③外国籍児童・生徒の就学・進学を支援します

外国籍児童・生徒を対象とした語学教育や生活指導により、学校生活に馴染ませ、就学・進学を円滑に進めるため、次の取り組みを実施しました。

- ・キャリア教育の一環として、ばら教室を卒業した先輩から学ぶ会を実施し、また、心の安定を図るため母語を使った自分の思いを表現する授業を行いました。
- ・就学前の準備指導「ひよこ教室」、小中学校就学支援「ゆめ教室」、高校進学支援「さつき教室」において、外国籍児童・生徒に対し、段階に応じた就学・進学支援を実施しました。

### ④子どもたちにふるさとの良さを伝えます(再掲)

基本目標2 参照

## 総括

「子育てしやすい」と感じている市民の割合は、令和6年度に実績値が大きく上昇したものの、アンケート内容の見直しによる影響が大きいため、令和5年度実績による評価を行いました。達成度は78.8%でC評価となりました。今後も状況を注視しながら、子育て支援策のさらなる充実が求められます。

「学級アセスメント調査等における三次支援が必要な児童生徒の割合」は増加傾向にあり、令和6年度には14.1%(目標12.6%以下)となりました。達成度は89.4%でB評価となりましたが、今後も支援が必要な児童生徒の早期把握に努め、適切に支援を行うことが求められます。

「ココロとカラダワークショップを体験した児童生徒の満足度」は98.7%(目標90.0%)、「授業でのICT活用状況」は81.7%(目標80.0%)、「ばら教室KANIへの入室率」は100%(目標100%)など、多くの指標で目標を上回りました。

一方で「子育てしやすい」との実感や、特別な支援を必要とする子どもたちへの対応については、今後もさらなる工夫と充実が求められます。育ちと学びの連続性を意識した教育・支援体制の構築を進め、すべての子どもが安心して成長できるまちの実現を目指します。

## 【基本目標4】(安心)

地域で安心して暮らし続けることのできる「健康と安心が実感できるまち」を創る

数値目標	基準値		R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	達成度
65歳以上人口に占める要支援・要介護認定者の割合	15.1% (R1)	目標値	国18.7% 県17.1% 以下	国18.9% 県17.3% 以下	国19.0% 県17.4% 以下	国19.4% 県17.7% 以下	国19.7% 県18.1% 以下	A  国116.6% 県107.1% (※6)
		実績値	15.8%	16.2%	16.5%	16.5%	16.9%	
地域で安心して暮らせるを感じている人の割合(アンケート)	28.0% (R1)	目標値	28.4%	28.8%	29.2%	29.6%	30.0%	B  81.0% (※7)
		実績値	25.9%	21.8%	21.8%	24.3%	46.1%	

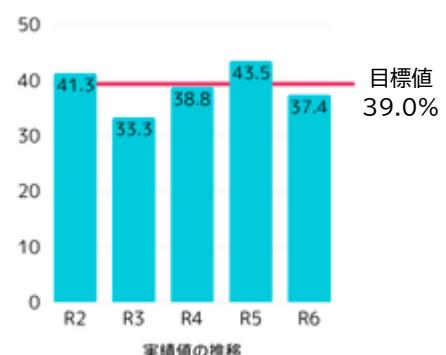
(※6)この数値目標は、目標値を下回ることで達成される指標です。達成度は(目標値÷実績値)×100で算出しています。

(※7)令和7年度に実施したアンケート内容の見直しにより、令和6年度の実績値が大きく上昇しています。そのため最終年度の実績値による評価を行わず、令和5年度実績値により達成度を評価しています。

### (1)健康で暮らせる環境づくり

【KPI】30分以上の運動を週2回以上、1年以上続けている人の割合(アンケート)

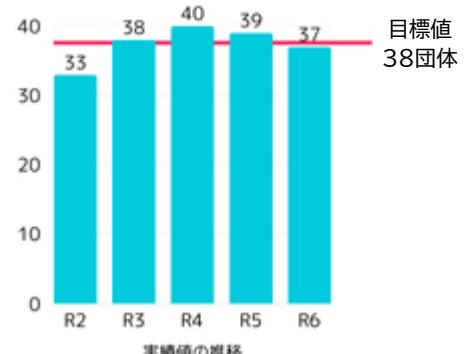
基準値(R1)	目標値(R6)	結果(R6)	達成度
34.9%	39.0%	37.4%	B 95.9%



### (2)支え合いにより地域で暮らせる仕組みづくり

【KPI】地域支え合い活動団体登録数

基準値(R1)	目標値(R6)	結果(R6)	達成度
33団体	38団体	37団体	B 97.4%

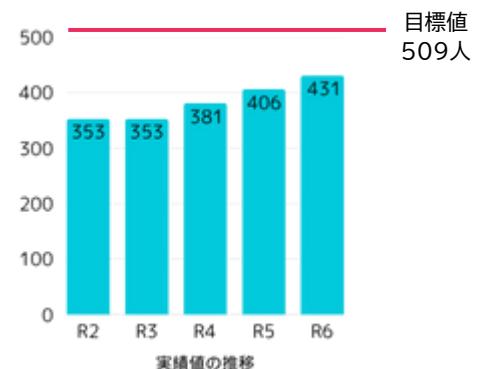


## 【KPI】(再掲)地域支え愛ポイント交換によるKマネー交付額…P5

### (3)安全・安心に暮らせる生活環境づくり

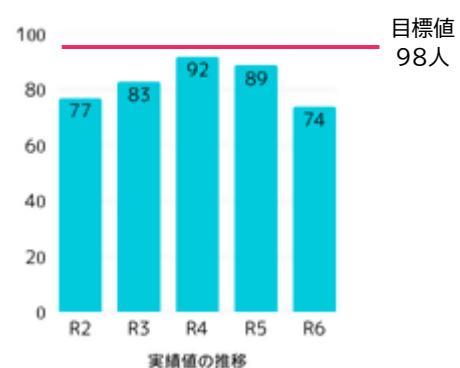
#### 【KPI】可児市防災リーダー養成講座の受講終了者数(累計)

基準値(R1)	目標値(R6)	結果(R6)	達成度
314人	509人	431人	B 84.7%



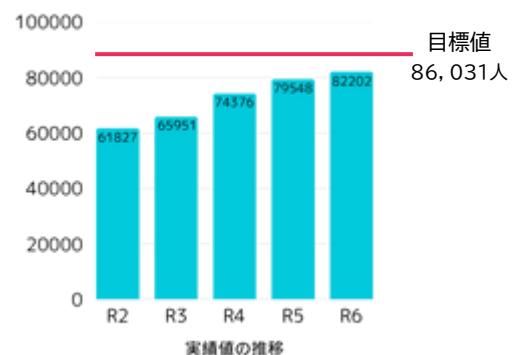
#### 【KPI】国際交流ボランティアの登録数

基準値(R1)	目標値(R6)	結果(R6)	達成度
56人	98人	74人	C 75.5%



#### 【KPI】コミュニティバスの利用者数

基準値(R1)	目標値(R6)	結果(R6)	達成度
81,934人	86,031人	82,202人	B 95.5%



#### 【KPI】地区センターの稼働率

基準値(R1)	目標値(R6)	結果(R6)	達成度
33.0%	37.0%	31.1%	B 84.1%



## 【基本目標4】(安心)

地域で安心して暮らし続けることのできる「健康と安心が実感できるまち」を創る

### 主な取り組み状況

#### (1)健康で暮らせる環境づくり

##### ①運動や健康づくりに親しむ機会を提供します

適度な運動の推奨や健康管理、健康的な食生活の実践をめざした食育等を推進するため、次の取り組みを実施しました。

- ・野菜摂取の推進などの食育啓発、ウォーキングや健康体操などの運動の体験機会の提供等により、運動や健康づくりの啓発を行いました。

#### (2)支え合いにより地域で暮らせる仕組みづくり

##### ①地域、医療、福祉が連携して安心な生活を確保します

医療、介護、住まい、生活支援サービス等が連携した、高齢者や障がい者等が地域で安心して生活できる相談体制、支え合いの仕組みづくりを進めるため、次の取り組みを実施しました。

- ・民間、行政、地域による各種会議を開催し、情報共有・関係機関の連携等により高齢者支援体制の強化を図りました。
- ・介護予防として軽度な運動を行う教室を定期的に開催したほか、高齢者の孤立防止のため、医療や地域とのつながりが希薄と思われる高齢者宅への訪問を実施しました。
- ・65歳以上の高齢者及び公共交通による移動に支障がある方などが住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、地域で移動支援や同行支援を行う自治会等の団体に対し、市が借り上げた車両を無償貸与しました。

##### ②地域の支え合いの活動を支援します

地域のボランティア活動や、民生児童委員等による見守り活動などの地域支え合い活動を支援するため、次の取り組みを実施しました。

- ・市民の主体的な支え合い活動を支援し、地域支え愛ポイントによるKマネーを交付しました。
- ・民生委員・児童委員や地域福祉協力者、協力事業者により、地域の要援護者等の見守りを行いました。
- ・生活支援コーディネーターと協力し、サロン等の新規開設や活動内容等の相談に応じるとともに、助成等による活動支援を行いました。

#### (3)安全・安心に暮らせる生活環境づくり

##### ①生活が守られ、暮らしの安全・安心を確保します

地域での防災・防犯活動の支援など、誰もが地域で安全・安心に暮らせる生活を確保するため、次の取り組みを実施しました。

- ・水防訓練・防災訓練で多言語で情報発信を行うことで、外国籍市民に対する情報伝達の充実を図りました。
- ・防災リーダー養成講座の実施、各種補助金により、地域防災力の向上、安心して暮らせる環境の整備促進を図りました。
- ・消費生活相談窓口を運営し、助言や斡旋を行いました。また、大学生と協働し、消費者トラブル防止啓発品を企画・開発し、市内の高校・大学に配布することで、若者の消費者被害の未然防止を図りました。

##### ②公共交通により、より良い移動手段を確保していきます

鉄道や路線バス、コミュニティバスといった公共交通の利用を促進し、公共交通の維持に取り組み、移動の利便性を確保するため、次の取り組みを実施しました。

- ・さつきバス無料デーの実施、運転免許証自主返納者回数券の交付、バスの乗り方講座等を実施し、バスをはじめとした公共交通の利用促進を図りました。

### ③将来にわたり持続可能な公共施設を運営・管理していきます

既存の公共施設について、長期的な視点により計画的な予防保全を推進するため、次の取り組みを実施しました。

・個別施設計画に基づき、長寿命化工事や照明のLED化を実施しました。

・デイサービスセンターの廃止による老人福祉センター可児川苑の未利用部分を、不登校児童生徒の支援を行う「スマイルルーム」とすることで、施設の有効活用を図りました。

## 総括

65歳以上人口に占める要支援・要介護認定者の割合は、令和6年度に16.9%となりました。本指標は割合の上昇を抑制することを目的とした目標であり、令和6年度実績値は国・県の目標値の割合を下回り、達成度はA評価となりました。

地域で安心して暮らせると感じている人の割合は、令和6年度に実績値が大きく上昇したものの、アンケート内容の見直しによる影響が大きいため、令和5年度実績の24.3%により評価を行い、達成度は96.7%でB評価となりました。

KPIにおいては、B評価5項目、C評価1項目という結果となりました。

「30分以上の運動を週2回以上、1年以上続けている人の割合」は37.4%(目標39.0%)でB評価となり、市民の健康意識の高まりは見られるものの、継続的な運動習慣の定着には、より日常的に取り組める環境整備や周囲の促進支援が必要と考えられます。

「地域支え合い活動団体登録数」や「防災リーダー養成講座の受講者数(累計)」もB評価にとどまりました。支え合いや防災といった地域の自助・共助を担う手の確保は引き続きの課題であり、参加のハードルを下げる工夫や、活動の魅力や社会的意義を伝える仕組みが求められます。

「国際交流ボランティアの登録数」は74人にとどまり、C評価(75.5%)となりました。活動内容の工夫や、参加しやすい環境づくりを進めることができます。

コミュニティバス利用者数や地区センター稼働率も目標に届かず、B評価となりました。地域インフラの利用促進には、サービスの利便性向上とあわせて、地域住民のニーズやライフスタイルに合わせた柔軟な運用が鍵となります。

今後も、地域での見守り体制の強化や、住民同士のつながりを促進する取り組みを通じて、市民の安心感の向上を図り、多文化共生の観点からも、外国籍市民が地域社会の一員として安心して暮らし、参画できる環境づくりの継続的な推進を図ります。